

## 県内で初めて確認されたナス根腐疫病の特徴

野菜研究所

2018年7月、県内のナスにおいて、萎れ、落葉、枯死が発生しました。原因を調査した結果、本県において初確認となる「ナス根腐疫病（ねぐされえきびょう）」によるものであることが明らかとなりました。早期に発見し被害拡大を防ぐため、この病害の症状・特徴・防除対策について以下に示します。

### 症状および特徴

- 地上部は、葉が萎れ、草丈が低く茎も細い。症状が進むと落葉し、枯死に至る。
- 地下部は、根が褐変腐敗し根量が少ない。
- 症状が類似する他の病害もあるが、本病害では根を切断すると中心部の褐変が認められる点異なる。
- 病原菌は土壌伝染性であるため、被害植物残渣とともに土壌中に残り、ナスの栽培にともなって孢子が発芽し、根部から感染する。



生育不良および葉の萎れ



落葉および根の褐変腐敗



根の切断面にみられる中心部の褐変

### 防除対策

- 連作を避ける。
- 被害株は早急に抜き取り、作物を植えない場所に埋める等適正に処分する。
- 機械作業等による汚染土壌の移動を防ぐ。
- 発病圃場で使用した資材は、廃棄するか丁寧に土を洗い落とす。
- 圃場の排水を良好にする。
- 台木(品種:「トルバム・ビガー」「耐病VF」「アカナス」等)を利用する。

お問い合わせ 野菜研究所 病虫部 (Tel 0176-53-7085)